



ラスティブル 敗北洗脳

【あらすじ】

彼女の名前は「紅 アカリ」

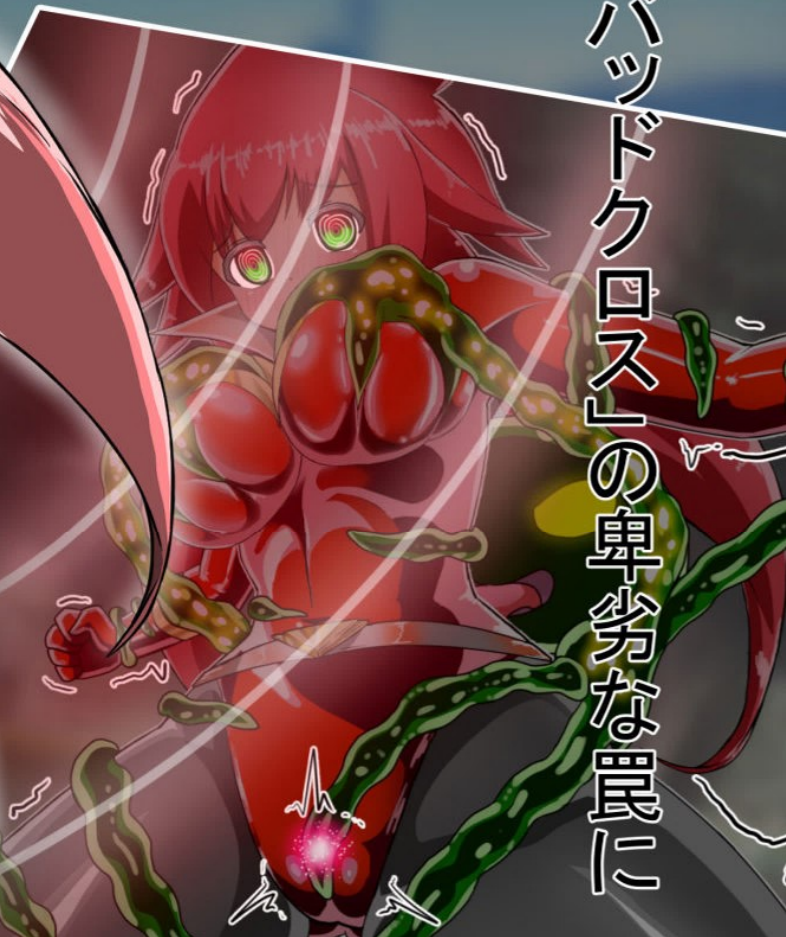
輝楽ヶ丘に住む少女



輝楽ヶ丘で普通の少女として過ぐして来た
彼女だが、ある日を境に正義のヒロイン
「ラストイレッド」として戦う事となった

しかし悪の組織「バッドクロス」の卑劣な畏に
敗北

捕らえられたアカリは洗脳されてしまい
バッドクロスに絶対の忠誠を誓い
主であるバッドクロスの為にその力を使う
奴隷へと堕ちたのだった



「きゃー!」

「いやっ、放して!」

今日も邪魔者がいないこの街の少女たちを襲い捕らえるバッドクロス。

「おらっ!」いつを見ろ!催眠モニターだ!!」
キイイイイ…

「あ、あう…」

「な、何だ?」



洗脳催眠モニターを使い少女を催眠状態にしそれ以外の者は今見たバッドクロスの活動の記憶を心の奥底へと封じ込めている。

そうすることでバッドクロスの存在が広まる事を防ぎ円滑に活動することが出来る。

バッドクロスの邪魔をする者がいない中、襲われた市民は奴らの術に抗う事が出来ない。

「うへへ、もう邪魔者はいない！
この街はオイラたちのものさ！！」

輝楽ヶ丘の為に奮闘したアカリだがバッドクロスに
敗北してしまったアカリ

しかしアカリがラストレッドとして覚醒する
前から輝楽ヶ丘の為に戦っていた戦士がいた

「そい」まどびよ！！」



【第1章 青き輝姫 ラステイブル】

「何だ？オイラ達バッドクロスに歯向かおうってのか？」

（バッドクロス…？見た事のない敵ね…

私が他の敵に気を取られていたとは言え
こいつらに気がつかなかったなんて！）

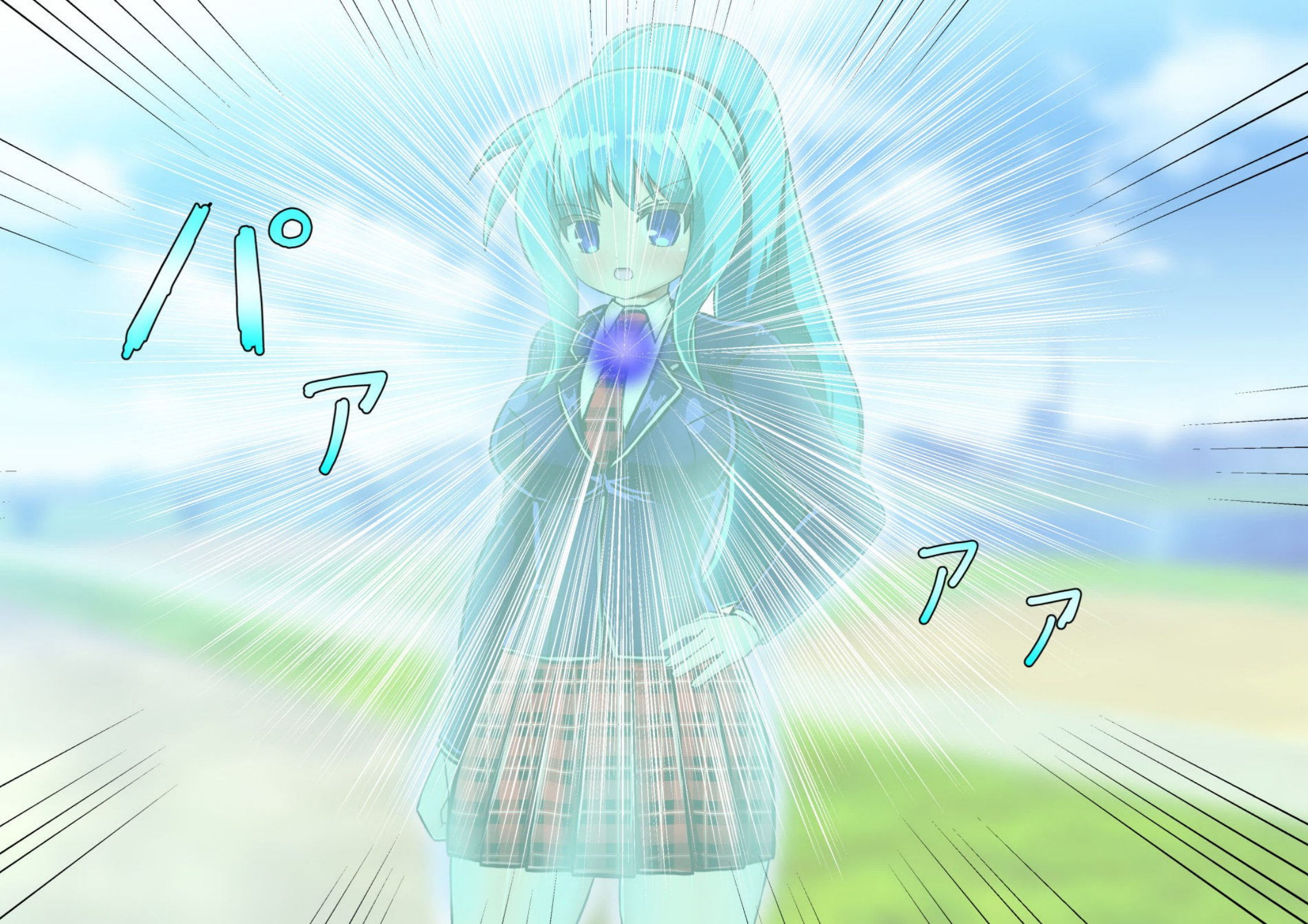
彼女の名は蒼真アオイ^{そうま}

普段はアカリと同じ輝楽ヶ丘学園に通う少女だが^{きらがおかがくえん}



バッドクロスが現れる前から、平和を脅かす
他の敵から街を守っていた。

「行くわよ！ラストイチエンジ！」



「私は青き輝姫 ラステイブルー!!
」の輝楽ヶ丘での悪さは私が許さない!!」



「これ以上あなた達の好き勝手にはさせないわ!!」

「な、ラスティブルー？アカリみたいなのがまだ居たのか…!?」

「…」からは私が相手よ!」

アオイは輝楽ヶ丘を守るもう一人の戦士

“青き輝姫ラスティブルー”だった。

市民を襲うバッドクロスを止めるためラスティブルーへと変身しバッドクロスと戦い始めるアオイ。



「な、まだあんな奴がいたのか…!」

それをモニター越しで観ている者がいた。

彼はバッドクロス科学者の「ドクタービグル」。アジトからアオイとライミーの戦いをモニターングしていた。「思ったより手」ずっているようだな…
あの身の「なし」、戦いには慣れてるようだな」



「まあいい、」いつもアイツ同様にじつくり墮としてやる…ライミー、そいつの体力を消耗させておけ！
くくく」

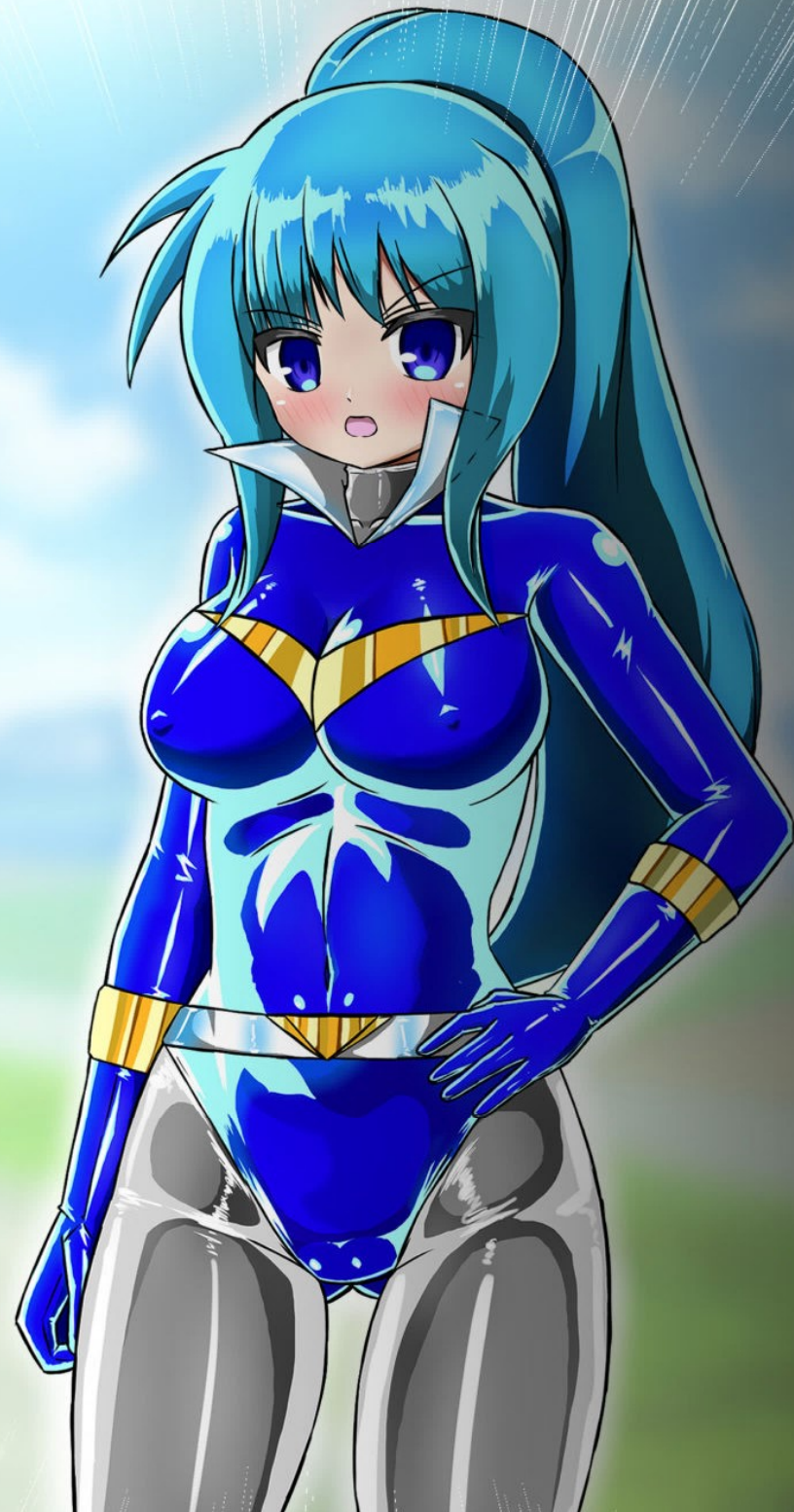
ビグルは不敵な笑みを浮かべながらライミーに支持を送る。さらに…

「念のため奴も向かわせるか。出番だ！」

キ イ イ イ …

「はい、ご主人様…」





「はぁあっ!」

「捕らえた女の子達を解放しなさい！」



ガッ ☆
ドッ



「ぐぬぬ、結構しぶといな……だけど……」

「今だ！洗脳催眠モニター！！」

「ぐっ…！！」
(「う、これは?」)

キ イ イ イ …



ラストイブルーに変身し

バッドクロスの怪物ライミーに前線したアオイ
だったが一瞬の隙を突かれ、モニターを見てしまう

「隙あり！それ！！」

「じ、しまったっ！」

「うへへへ、捕まえた！」

「くっ…放しなさい!!」



モニターの催眠効果のある映像を目にし一瞬意識が揺らいだ瞬間、ライミーがまとわりつきアオイの身体を拘束する

「このっ！」

アオイは捕縛を振りほどこうともがくが
決して拘束を解こうとしないライミー



こうなったら力を解放して……！

アオイの反撃を察したライミーは……

「そうはさせないよ！それ！！」

「あうっ!」

反撃しようとした瞬間、ライミーがアオイの胸を鷲掴むように吸いつき思わず声をあげてしまうアオイ



「んっ、「いつ…な、何を!」

「お楽しみは「これからだよ」

「そりゃー！」

「あああつー！」

（な、なに「れ…?!」）

触手を使いアオイの乳房からエネルギーを吸いあげ始めるライミー

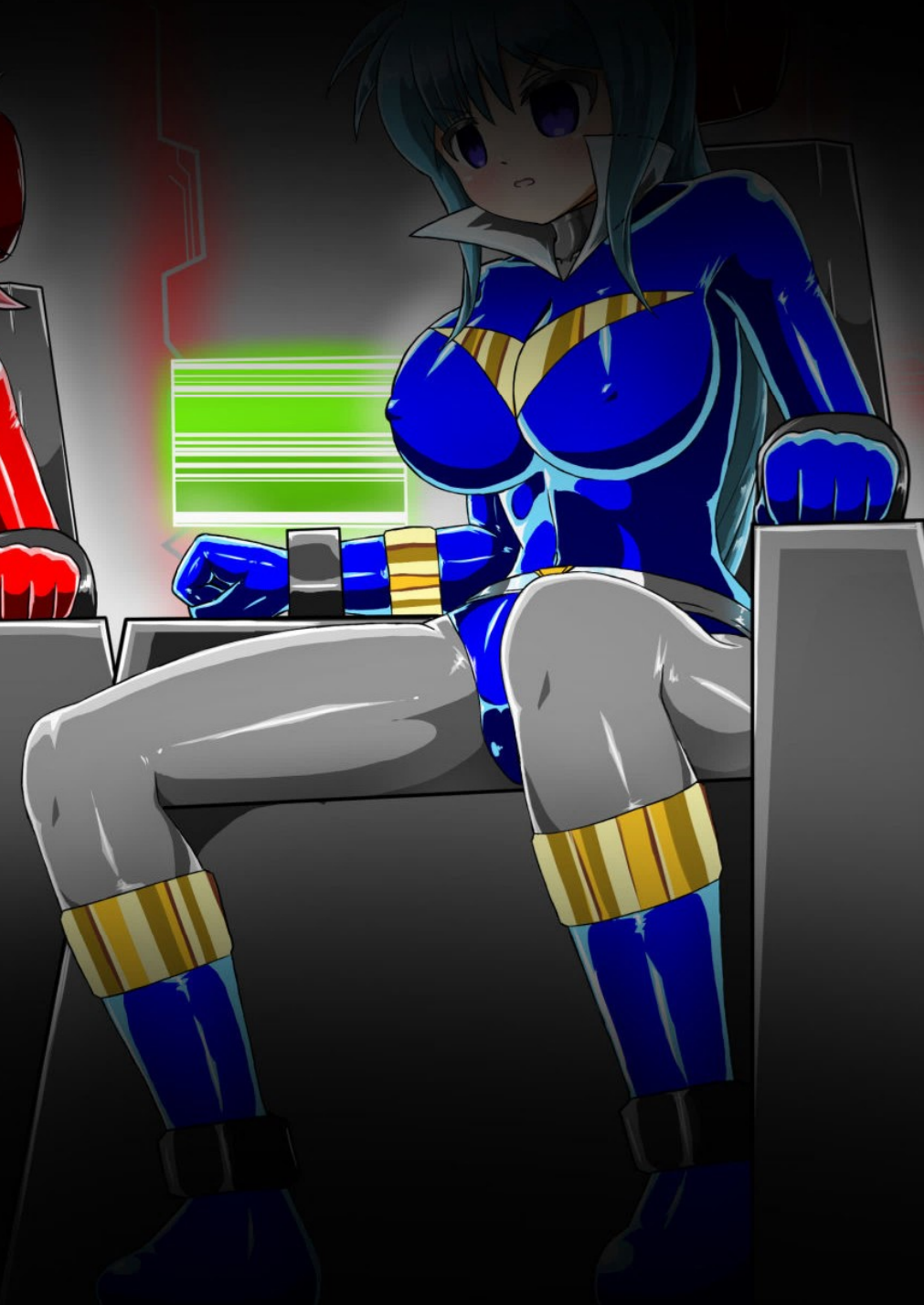
クッ！

「はあ、はあ」
（力が…抜けてく…まずい、何とかしないと！）

力を吸い上げられながらも何とか脱出するチャンスを伺うアオイ



「んんん」
(ううう...?)



「身体が動かない…なっ?!」これは…!!
目を覚ましたアオイは自身が拘束されて居る事に
気付く。

「そっだ…私はバッドクロスと戦っていて…」



「それにしても」「は…?!、あなたは！」
状況を把握しようとする周りを見渡すと
アカリも拘束されていた

「そうだあなたから攻撃を受けて…!!
なのにどうしてあなたまで…?!」

（思い出したわ…あの時のあれ…!!）

ピポピポ…!!

ん…なに?今の…

アカリがセクハラを受けていた事を思い出すと同時に「瞬だが
身体が火照るのを感じたアオイ

（最近してなかったから少しだけ……）

（でも……私はラストイブル……
あの時のことを思い出して「こんなこと……」

自身の使命を思い出し自慰をすることに
対し罪悪感を覚え
自慰をためらい始めるアオイ

（抵抗しようとする無駄だ……）



ピロピロ...

キイイイ...

「んうっ...」

（ま、また...）

正義の戦士であるアオイの自制心をかき消すように
ナノマシンが性感を刺激しバッドクロスに捕まった時に
刷り込まれた催眠がアオイを蝕み性欲をかき立てる

キイイ...

びるる

「はっはっは...」



「んっ…」

無理やりとは知らず高められた
性欲を諫めるため
アオイは胸を刺激し始める

ムニムニ

変身姿で戦闘中や捕らえられた時に与えられた刺激を
思い出し性欲が高まり自慰に浸ろうとしている事に羞恥を覚える

ドクドク…

「う…ん…」

「こんなおしゃ抑えられない…」

そんなアオイに反し羞恥を感じたと同時にナノマシンが
アオイの性感を刺激する

「ダメよ……しっかりしなさいっ！私はラストイブブルーよ！！」

戦士としての使命を思い出し自分自身の心に呼びかけ
絶頂への期待感を振り払いライミーを睨みつける

「さすがラストイブブルー！抵抗する気だね
でもいいの？大人しくしてればすぐに気持ちよくしてあげるのに！」



「ぶるる……」

「ぶるる……」

「ぶるる……」

「ぶるる……」

「ぶるる……」

「ぶるる……」

「ぶるる……」

「ぶるる……」

「さあ、そのエッチな身体をおじさん達が今から可愛がってあげるから腕は頭の後ろにするんだ」

キイイイ…
ピピピ…

「ふっ…」

戦いで消耗してる上、ナノマシンと催眠により意識は希薄に
身体は火照り男達を拒絶する気力は二人には残って居なかった



「よし、いい子だ!」

「はぁ、はぁ…」

「おじさん達がいつまでこのままにいるんだよ…
それじゃあ始めようか!」

「はっ…」

相手が一般人に扮した戦闘員だと知らずに体力を消耗し
催眠とナノマシンの影響もあってか、いつもより従順な態度の二人

「いくぞ、おりゃー!」

「んっっっ」

「あうっっ♡」

男たちが二人の胸を驚掴み、アオイ達は思わず喘ぎ声をあげる



「ほら、どうだー!」

「あう、んっっっ♡」

「柔らかくてでっかい乳しやがってー!」

「あうっっっ♡はあうっっ♡♡」

「さあ、「うち」来い！」
「いやっ…、離して！」

ビグルはアオイを無理やり立たせ
弱体装置を取り付け、尻を向けさせる

「な、何をする気…？」

「くくく、そんなの分かりきっているだろうっ」

「身体が疼いて仕方ないのでは無いのか？」

ピピピ…

びるる…

キィ…

ピピピ…

キィィィ…

「ち、撞うつっ…、いやっ…、やめてっ…」

（ああ、♡、身体だけじゃない…お尻も熱い…♡）

ビグルの言葉を否定しながらも、
先ほどの催眠状態でのビグルとの質疑応答が刷り込まれた
催眠により呼び起こされつつ、ナノマシンにより
身体だけではなく肛門への欲求が高まる

「はあ、はあ、はあ……♡」
（もしお尻も犯されたらどうなるの……？
それでもし絶頂なんてしたら私……♡）
ジジジ……



やあ♡
はあ♡

「ああ♡、はあ、はあ……♡」
（力が抜けていく……、身体が熱い……♡）

弱体装置が唸り始め、
自身の身体の脱力感と高まりを感じつつ悶えるアオイ

